

【平栗扶美先生抄録】

等脚台形分析による人工歯排列ガイドラインを再考する

無歯顎者の人工歯排列におけるガイドラインのひとつに『天然歯がもとあった位置』という考え方がある。その『天然歯がもとあった位置』を求めるために考案された、模型分析の方法のひとつとして等脚台形分析がある。それは歯科技工士大野健夫氏^著がおびただしい量の有歯顎模型を計測、解剖学的視点から考案した模型分析法で、総義歯製作の礎である咬合床製作の手法から発展したものである。

通称“大野の台形法”と呼ばれる、等脚台形分析から導かれた数値は、昨今のデジタル化における総義歯人工歯排列にも、有効かつ重要な計測数値として注目されはじめたと聞いている。あらためてその考え方を紐解き、先人の残した叡智にふれてみたい。

今回は、咬合床の作り方から人工歯排列への応用を時間の許す限り、ハンズオン形式でお伝えする。